ベストクラス選定理由書

作成者：内田朋恵、LEE JONGBEOM、バード理衣、福井南海、前芝武史、山口眞琴

科目名称　　教育コミュニケーション実践論（夜間クラス） （担当教員名：平野　亮、中間　玲子、吉國　秀人、坂口　真康、大関　達也）	
課　　程　：　大学院（修士）	開講時期　：　後期
授業形態　：　演習	授業規模　：　30 人以下
インタビュー対象教員名　　平野　亮、中間　玲子、吉國　秀人、大関　達也 （実施日時：8 月 23 日(月)18:30～19:30　；　実施場所：Zoom による実施　　）	
インタビュー対象受講者名　高橋　利明、柏原　さや、塚本　由利子 （実施日時：8 月 23 日(月)18:30～19:30　；　実施場所：Zoom による実施　　）	

選定理由

本授業の目的は、よりよい教育コミュニケーションのあり方を探求するためにワークショップを行い、学生が主体となり学びのゴールを作り上げていくことである。例年はテーマ設定からグループで行っている。今年度は例年と違い対面でのグループワークができないことから教員が先にテーマ「オンライン授業の光と影」を設定した。2 グループに分かれ、オンライン授業の光と影について議論を交わし次回の議論のテーマや資料(論文や実践例など)も自分たちで決めて進めた。

１．グループワークでの学び

受講者からの意見では、教員もグループの一員のような立ち位置であり、一方的な教示ではなくともに作り上げていく構成員であったことが受講生の参画度や主体性を高めたと考えられる。さらに、グループでの対話がずれたり壁にぶつかったりしたときには、軌道修正や助言が適切に行われた。教員と学生、また学生間のコミュニケーションは授業の中でそれぞれの役割をこなし、任せる事は任せると言った関わりの中で高まっている。また、受講者からは、「現職者が多い夜間クラスならではの他校種や異年齢といったグループ構成が議論を活性化させた」という意見もあった。

２．オンライン授業の光と影について

テーマについての答えはこの授業を受講すれば見えてくる。答えを探す過程が学びであり 15 回の授業の中でそれぞれが気付いたことがこの授業の「学び」である。受講生の声では例えば、オンラインの光として、距離や空間を超えてのコミュニケーションが可能となり、遠くの県の教員の実践例を聞くことができたという声が挙げられた。オンラインの光として他には、グループでの関わりの中でジェンダーなどの差別なくフラットな環境が与えられること、資料の共有や悩み・意見の発信が気軽に teams などを活用してできたことなどがあげられた。

また一方でオンラインの影として、話が逸れても話を切ったり軌道修正したりすることが難しいなどのコミュニケーション上の課題が挙げられた。また、身体的な関わりや手助けなどのコミュニケーションが難しいことも挙げられた。オンラインの限界を知った上で、例えば幼児にはどのような手立てをすればオンラインでコミュニケーションが図れるかなどと議論が広がったグループもあった。コメントにもあったが、テーマの探求と同時に、受講の実体験として学生は、「オンライン授業の可能性を強く感じた」ようである。本授業はオンライン授業の可能性も示すものになったのではないかと考える。

３．総括

今回のテーマである「オンラインの光と影」に対しての答えを探すことが本授業のゴールではない。テーマについて考える中で学生主導でワークを行っていく事、それ自体が学びとなっている。そのために指導教員たちはどこまで院生を信頼できるか、教員はどこまで関わるかを常に考え、この授業を作っている。その信頼にこたえ、受講生が真摯にテーマと向き合ってコミュニケーションを高めていた。受講生一人ひとりが真摯にテーマと向き合ったこと、教員の適切な助言や支援があったことで、豊富な知的刺激が得られたのではないかと考える。この授業は教員と学生が共に作り上げるという点が評価されていると感じた。よって本授業はベストクラスに相応しいと結論した。